

CLIL（内容言語統合型学習）のすすめ

山崎 勝

国際教育研究所理事
埼玉県立和光国際高等学校教諭

日本に CLIL が紹介されてから 10 年ほどになる。CLIL が日本の英語教育にこれまで何をもたらしてきたかを振り返ってみたい。CLIL とは **Content and Language Integrated Learning**（内容言語統合型学習）であり、「内容」と「言語」の両方を教えることを重視する。この 10 年で、「内容」を重視する英語の授業が増えてきたように思うが、「内容」さえ扱っていれば CLIL かというと、そうではないと筆者は思う。CLIL には 4 つの C と呼ばれる枠組みがあり、これらの要件を満たしていることが、CLIL の質を担保することになると思う。以下に具体的に見ていく。

1 つ目の C は **Content**（内容）である。教科知識・題材内容がこれにあたる。CLIL の授業はこれを出発点とする。「内容」は何でもよいわけではなく、例えば、「道案内」とか「買い物」の会話ではなく、中身のあるアカデミックな教科知識を扱いたい。これを 2 つ目の C である **Communication**（言語）と同等に扱うことにより、「英語で学ぶ」授業を指向するものである。従来の英語の授業の多くは、「内容」より「言語」に重点が置かれていた。「言語」の授業なのだからそれでよいのかもしれないが、従来の「内容」の扱いはどうだっただろうか。現行の検定教科書でも各レッスンの題材内容は豊かで充実したものになっており、その内容は、環境問題・国際問題・社会問題・科学技術など多岐にわたっている。では実際の授業での内容の扱いはどうか。例えば、環境問題で「地球温暖化」を扱ったレッスンは多くの教科書で見ることができる。ところが、高校現場は教科書を採択する際に、「地球温暖化」というトピックを教えたいからその教科書を採択するというものでは必ずしもない。多くの場合は、現場の教

員の関心事は、教科書で使われている英語の難易度ではないだろうか。使われている単語のレベルや文章の分量を見て、教える生徒の英語力に合ったものを選んでいないのか。つまり、授業で教えたことは「単語」・「文法」・「読解」であり、その訓練の材料として題材が存在しているということである。「地球温暖化」のレッスンを通して学ぶことは、本文中の単語を覚えることや、本文中で使われている文法事項を理解することや、長文を読解して理解し音読できるようになることである。活動の中心は理解と暗記である。理解した後で、「地球温暖化」について考えたり話し合ったりするのかというと、たいていは、時間がないのでそれはやらないのである。このような授業では、一定の時間を経て生徒の頭に残っているのは、単語と文法と長文読解の練習をしたという記憶のみである。これに対して CLIL の授業では、英語を使って「内容」を学ぶので、生徒の記憶に残るのは、「題材内容」の方である。CLIL の授業を実践することにより、従来の「英語を学ぶ」授業から「英語で学ぶ」授業へと転換することになり、「内容」と「言語」が統合することにより、「英語の授業は英語で行う」という方向性とも両立する。

続いて、3つ目の C は **Cognition** (思考) である。「道案内」や「買い物」ではなく、思考を要するやりがいのある内容を扱いたい。授業の出発点が「教科知識」であるとすると、授業のゴールはその「汎用能力」だと考えたい。従来の授業が理解と暗記に重点があったとすると、そのゴールは正解の答え合わせになりがちである。これに対して、CLIL の授業の目指すところは、正解のない問いに自分なりの解を出すことである。教科知識（宣言的知識）を暗記にとどめずに、自分の日常生活で活用する汎用能力（手続的知識）をゴールとしたい。現在、入試制度も転換点に向けており、覚えた知識を吐き出すだけの学力では対応できないような問題にテストも変わっていくと言われている。正解のない問いに自分なりの解を出すというゴールは、これからの社会が求めている方向性とも合致する。

最後の4つ目の C は **Community / Culture** (協学) である。周りの人と共に学ぶということで、国際理解や異文化理解もこの中に含まれる。教室での活動では、ペアワークやグループワークがこれにあたる。では、具体的に何をするか。「話し合い」・「意見交換」である。**Story Retelling** や **Summary Writing** がゴールではなく、その先に活動を進めるのである。理解した内容を発表するだけではなく、意見を言うことまで求めるのである。**prepared speech** を出発点としながらも、その後の **prepared** ではない即興の「やり取り」まで行うということである。グループ内での双方向の「やり取り」によりこれを行うのである。

以上のように、良質の CLIL は英語教育の質の改善に資する可能性がある。

2019年9月28日(土)第185回月例研究会報告

第1部：講演

テーマ：「レディネスに関する一考察」—英検と TOEIC

「SWを受験した生徒の結果から見えてくること—」

講師：奥山則和(桐蔭学園グローバル教育センターセンター長)

奥山則和先生のプロフィール

早稲田大学第一文学部史学科西洋史学専修卒業、大学卒業後イギリスへ。バーミンガム市内の公立小学校で日本文化を教えるプログラムを足掛かりに、ロンドンの公立中等学校で日本の教員免許(地歴)を活かし OTT(Overseas Trained Teacher)として歴史中心の人文科(Humanities)の教員になる。在英中にロンドン大学教育研究所大学院(Institute of education, University of London)で PGCE(Post Graduate Certificate in Education, Secondary, History)を修了し、イングランドの教員免許も取得。帰国後、首都圏のインターナショナルスクールに勤務する傍ら中高外国語の免許を取得し、2012年より桐蔭学園に勤務。グローバル人材育成教育学会理事・教育連携部会長。(登壇者のインタビュー記事) <https://www.toefl-ibt.jp/interview/toin.html>

発表概要

桐蔭学園のアクティブラーニング型授業 準備期間を経て、2015年度より(当時)京都大学の溝上慎一教授を教育顧問として招聘し、本格的にアクティブラーニング型授業を導入している。ほとんど講義調ばかりであった授業が、「個→協働→個」・「習得→活用→探究」というモデルを軸とした授業展開になった。この手法を取り入れた目的は、「社会へのトランジション」を円滑にするためである。大学入試を目指すだけの学校に止まらないようにするべく、日々工夫をしている。英語科では、4技能をバランスよく育成すべく 試行錯誤を続けている。

外部検定試験の活用について 本校では小学部から英検を団体受検しており、教員・生徒・保護者がどの級がどの程度の大学進学 への指標となるかを概ね把

握している。また、帰国子女には TOEIC SW 試験を毎年受検させている。検定試験の情報は学校としてできる限り収集し、活かせるものは授業や進路指導に活用している。

両試験のスコアについて 本校に勤める教員、本校に通う生徒たち、本校へ子どもたちを送り出している保護者、三者が馴染んでいる英検に対し、TOEIC の認知度はそれほど高いとは言えない。また、試験のつくられ方を みても、日本の文脈が考慮された英検に対し、社会人になってから英語を用いる環境で出会いそうな文脈を考慮された試験の TOEIC は大きく異なる。後者の試験は、日本人生徒、特にアルバイト が基本的に許されていない者にとっては実力を発揮しにくい試験ではないのではないのか。両試験を受けた生徒たちのスコアを分析し、同受験者の両試験へのパフォーマンスを比較する。

第 185 回月例研究会第 2 部授業実践発表

テーマ：英語学習のやる気を出せる教材の紹介

授業実践発表者：猪狩保昌（都立東大和高等学校教諭）

猪狩保昌先生の自己紹介（英語が苦手な生徒と歩んできた教師の歩み）

京都生まれ。学習困難校、生徒指導困難校の英語教育は教育実習の時から始まった。大学 4 回生の時に、母校に教育実習に行った。男子校であったが、男女共学になっていた。学校は荒れていた。担当したクラスは、担任が 2 人変わっているクラスであった。授業が出来る状態ではなかったので、教育実習の途中で、教育実習をリタイアすることに決めた。担当教員に「教育実習をリタイアします。」伝えた。しかし、その時の担当教員からは、次のように言われた。

「こういう学校はこれからどんどん増えていくんやで。この教育実習が終われば、どこの学校でも働けるで！」私はその教師の言葉を信じ、何とか教育実習を乗り越えることができた。

大学卒業後の 1999 年に私立八洲学園高等学校（普通科・通信制）で非常勤講師として勤務した。当時は就職氷河期のため教員採用試験では「今年、英語は募集をしていません。」などあたり前の時代であった。当時は、京都会場、梅田会場（大阪市）でスクーリングを担当し、関東会場の生徒のレポートの添削をした。生徒層は 16～18 歳の生徒が大半であったが、30 代、40 代、50 代の生徒

も在籍していた。生徒の大半が不登校、学校を退学した生徒、何らかの体調不良の生徒が多かった。そのときは発達障害とか特別支援という言葉には無知であった。その当時の自分には、今まで習ってきた英語教師の授業の真似をしても太刀打ち出来なかったので、自分なりの工夫をこらした。ネタ仕込みをした教材、プリントを用意して授業を行った。いろいろな生徒がいるので、生徒をあてて、答えを言わせるなどということは禁止されていた。

2000年に専任教諭となり、大阪・梅田キャンパスで担任、生徒募集、授業を担当することになった。当時は3000人在学という大規模な学校で、生徒を相手に指導をすることになった。2001年、東京の渋谷キャンパスに異動になった。これを機に、私の関東生活が始まった。関東エリアには、渋谷以外に新宿、池袋、上野、横浜の学校があった。池袋以外の学校を担当した。2015年八洲学園高等学校を退職した。その間、中国語の教員免許を取得し、特別支援の生徒が増加したため、特別支援学校教員免許を取得した。

退職後は東京都立ろう学校（期限付き任用教員）、東京都立羽村高等学校（担任、臨時的任用教員）、東京都立東大和高等学校（臨時的任用教員）として教師生活を歩んできた。

羽村高等学校では、2年勤務しました。2学期から急遽、担任を任されることになり、波乱万丈でした。授業は、習熟度別のクラスでした。全部、英語の成績が悪いクラスを担当しました。こんな教師生活の歩みであるが、今後も英語が苦手な生徒の気持ち添って、授業改善を進めて行ければと思っている。

*共著：授業をグーンと楽しくする英語教材シリーズ38

「学習困難を克服する！英語授業アイデア&スーパーワーク」

発行所：明治図書出版株式会社

2019年9月28日（土）第185回月例会での授業実践発表概要

テーマ：「英語学習のやる気を出せる教材の紹介」

英語学習に意欲的ではない生徒、また英語が苦手な生徒に関しての指導は、すべて現場任せということが、今の現状である。また小学校に英語の授業が取り入れてからも、課題の1つとなっていくであろう。英語は日本語と違い、そのまま勉強できる科目ではない。生徒にとって、自力でなんとかなる科目でもない。だからこそ、教師は、生徒の実態やクラスの実態に合わせて、教材の工夫が必要となる。

だが、教師自身のどうしていいのか、疲弊していることが教育現場の実情でもある。もう、英語の興味のない生徒は、お客様、またいないものとして授業を進めていく教師もいる。途方に暮れる問題でもある。しかし、教材を工夫し、生徒が「少しでもやってみようか。」「おっ、なんか、今日はいつもと違う授業だな」など思わせたら、成功である。

とにかく、欲張らないで生徒がペンを持って思考する、また英語を聴く態度をもつ、なんか話そうとする態度を持つようにするのが大切では、ないであろうか。かといって、ヤル気の無い生徒ばかりに合わせてばかりでは、授業が進めないこともある。甘い言い方かもしれないが「100%でないといけない」「完璧ではないといけない」ということではない。言語は修正しながら、取り組みながら正確さを増していく。

今回の紹介した教材は、下記の要点を押さえた教材である。

1. 生徒同士が、協同的にかつ主体的に学習できる。
2. ゲーム感覚とパズルの要素を取り入れて取り組める。
3. 生徒が自分で英語学習に取り組みやすい

1. 単語の森

今回、紹介した教材の1つである。たくさんのアルファベットの中からアルファベットを抜き出して英単語を見つけるやり方である。

Hafijiabeautifuljhdh

上記のランダムにアルファベットが並んでいる、このアルファベットの森の中に英単語が隠れている。

Hafijiabeautifuljhdh

解答は beautiful である。このように生徒にゲーム感覚、パズル感覚で英語学習に取り組ませれば、生徒は英語学習にやる気が少しでる。また、下記のように問題を出して、ペアで競争をさせてやることもできる。最初からペアでやると、物事をじっくり考えて学習に取り組みにくい生徒、集中力に持続性がない生徒にとっては、ためにならないので、最初は一人でじっくり取り組みさせることが必要である。

1. Naie[nice]
2. Anf[cut]fjio
3. Ah[ftomato]
4. hfhsifs[Afirica]

次にこの単語の森は、学習した単語を使うことが重要である。なぜなら、生徒にとって未知な単語を使うと、単語の森に迷い続けたままになってしまうからである。

2. 単語の森の応用編 ー英文の森ー

単語の森は、これはひらめきで、開発した教材である。特許を取りたいくらいに、苦労して開発した教材である。私は東京都の公立学校の前では、私立の通信制校に勤務していた。当時、高校を中途退学の生徒が多い時期であり、日本全国、特に都市部では社会問題になる現状だった。生徒は、教師が生徒に教える授業では、つまらない、また英語が嫌い

になるという生徒はたくさんいた。私は普通の授業形式以外で何かできることはないかという考えに陥り、英語教育の森にさまよった（笑）そんな中、単語の森の教材がひらめいたのである。

次に単語の森を応用して、単語の森から英単語を拾って英文を作成するという英文の森を紹介する。これは、いたって教材作成も簡単である。単語の森をさらに深くすれば良いのである。

hgjsklljoj adgamji ghnsfromhju hdnaCanada .

このように単語をランダムに組み合わせて、かつ、ランダムに並んだかたまりの中に、単語が2個完成しないように、アルファベットを並べるのである。

そうすると・・・上記のランダムに並んだアルファベットからは。

hgjsklljoj adgamji ghnsfromhju hdnaCanada .

I am from Canada.

このように、英文ができるのである。

また、次のように応用することもできる。

Adgamji ghnsfromhju hgjsklljoj hdnaCanada .

各アルファベットの塊から、単語を抽出して、英文を作成させるのである。

ただし、この教材には何点か生徒に配慮しないといけない点がある。

- ① 復習で使用する
- ② 文法を意識させて、探させる
- ③ 集中力をつかさねることができる反面、集中力が切れるとやらないことも起こりうる
- ④ 文字の認識が苦手な生徒には、フォントによっては大文字の「I」（アイ）と小文字の「l」（エル）認識ができない。

他にも生徒に配慮しなければならない点はあるが、特に③と④に関しては、特別支援学校や生徒指導困難の高校、中学校では、十分配慮しなければならない。そのため私は、wordで作成するときは英語のフォントの種類は「Bookman Old Style」を使用し、フォントサイズも14～20にしている。また行間（スペース）も適度に調整しながら、プリント教材を作成している。また幸いなことに最近、wordのフォントの種類が豊富になり、新しいフォントも出てきているので、見やすいフォントを探している。

3. 単語のかけら集め

生徒にとって、英単語は長いと把握しにくい。そこで英語を組み合わせながら、英単語の成り立ちを認識させていく。これは、生徒に単語の「かけら」を組わせて、英単語を完成させる教材である。まずは、生徒に英単語の見本を見せながら英単語のかけらを組み合わせて、完成させる。

water rehydrate import export
wa im port re ter ex hyd port rate

上記の単語のかけらには、不要な語句も入れてある。この教材の目的は、生徒に英単語の認識をするためである。生徒の中には、文字を読むことや認識することが苦手な生徒もいる。そのような生徒のために、英単語をみてしっかり、英単語を組み合わせさせるのである。

さて、この見本を見ながらの英単語のかけら集めができれば、次は本番である。

dis de de in ma ken berak
bro cover k k me im cide ke
prove crease crease ing now lon

この本番のやり方は、生徒の実態に合わせてやっていただければよい。ただし、ただ黙々と単語を完成させるよりも、ここでもゲーム要素を入れて学習活動を展開させることもできる。例えば、

- ・時間を決めて、時間内に何個の英単語を組み合わせることができたのか、競争させる。
- ・ペアー一組なって、ペアーで対戦させる。

このようにやり方により、生徒にとって英語学習にやる気が出るように展開することができるのである。

4. 文法

文法は形で認識させるようにしている。例えば、不定詞の場合は to+動詞の原形というのが形である。生徒に下記の語句や、英文を用いて英文法の学習にエンジンがかかるようにしている。

次の中から正しい、不定詞を選びなさい。

to be // to understood // to ate // to king // to go // to written

次の中から正しい不定詞の英文を見つけて、番号に○をしなさい。

- 1) I went to the restaurant to ate lobster.
- 2) I went to the restaurant to eaten lobster.
- 3) I went to the restaurant to eat lobster.

このように、英文の形と英単語に注目させながら、英文法の学習をさせている。

5. 最後に

なかなか、学習困難な生徒の英語指導、生活指導困難校のための英語指導のセミナーや勉強会というのは、行われていない。私は、国際研究所の所長である山岸先生から、このような発表の立場を与えていただき、感謝の気持ちでいっぱいである。私は、これからも英語の授業に取り組まない生徒のために、教材を開発していきたい。生徒にとって英語学習が楽しいと思う授業ができるように日々、探す旅を続けている。

日本社会では、グローバル化の波に乗っているため、オリンピックが控えているため英語教育について、また英語に必要性が目立っているが、しかし英語学習の波に乗り遅れた生徒を救うミッションが英語教師にある。「英語ができない生徒は勉強をしていないから」など生徒の原因にしてはいけない。我々、英語教師が生徒に手を差し伸べて、グローバル社会の波に自ら乗れるように育てることが重要である。

2019年度国際教育研究所第4回理事会議案

1. 日 時：2019年10月26日（土曜日） 12：30～13：30
2. 場 所：公益財団法人日本英語検定協会 B 館1階 大会議室 B
出席者：小原弥生、江口邦彦、川崎 清、白石よしえ、田中慎也、
田中ケアリー、毛里千里、山本新治、山岸信義、山崎 勝
欠席者：片山七三雄、瀬上和典、山本恭子、山野有紀、平見勇雄、
中西千春
司 会：山岸信義
書 記：山崎 勝

A. 報告

1. 第3回理事会の報告
2. 9月例会の報告

3. 大修館発行の英語教育10月臨時増刊号には、最新の当研究所の案内が掲載されている。
4. 大修館発行の英語教育 11 月号の英語教育通信欄に、当研究所の共催セミナーの案内が掲載されている。
5. ELEC のえいごネットにも、10 月例会と共催セミナーの案内掲載を、10 月 19 日にメールで依頼をした。

B. 議案

1. 2021 年度に向けた運営方針の見直しと土台固めの件

- (1) 2020 年度は、10 月に創立 30 周年記念を迎える節目の年を迎えるので、今までの歩みを振り返り、伝統を維持しつつ、時代に対応した運営方針の見直しを行い、会員主体の活動となる組織づくりを進めていく。

* 第 3 回理事会で議決された今後の当研究所の組織と役割分担：

- (2) 今後の運営方針を改善し、さらなる発展を目指して行くためには、伝統的な規約の見直しも必要となる。そこで、次のような項目について協議をし、今後の具体的な方針を煮詰めていきたい。

規約第 3 条には、下記のように書かれている。

第三条 本学会は、国際的に活躍できる日本人＝人間を養成するための言語教育・国際文化教育の向上を目指し、研究・研修及びその推進活動を行うことを目的とする。

【幹部会での一部文言の改訂案】

現在の第三条にある日本人の表現を人間にすることを提案する。この表現に変えることで、グローバル化された社会で、世界市民意識を持って、

世界に羽ばたく若者の育成への学会での思いを含める事が出来ると

考える。

＜現在の我が国の教育界の課題＞

生徒や学生の多様化に伴い、教授法の知識や指導技術だけでは、授業が成立しない現象が至るところで起きている。授業方法の見直しや教育の質を高める事が大きな課題となっている。学習指導要領の改訂では、「知識の理解を深め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」を重視した教育体制が求められている。当研究所でも、30周年記念を迎えるこの時期に、このような動きを視野に入れて、当研究所としての今後の運営方針の見直しが求められている。

2. 2020年以降の月例研究会の運営に関する検討

(1) 現在の月例会での開催時間は、14:00～17:00となっており、時間配分は

第一部が、14:00～15:20で、休憩が、15:20～15:30となっている。

第二部は、15:30～17:00となっている。

2020年度以降は、上記の時間を変更し、15:00～17:00の時間帯にする。

＜2時間の流れ＞(案)

○発表者は一人で2時間を発表者に任せる。

○授業実践発表又は講演は2時間とする。

○2時間に含める内容例として、パネルディスカッション、現場からの問題に

ついでの討論なども含め、発表者が自由に行う。

○月例研究会は、5月、6月、9月、10月、11月の年間第4土曜日の5回とする。

3. 2018年度と2019年度にかけて、国際教育研究所主催の「英語発音講座/発音クリニック」を、田中ケアリー理事に、講師としてご担当していただき、本日の10月26日の13:00～13:50まで開催される第10回発音講座で、2年間連続の講座が終了することになっている。

英語発音講座担当の田中ケアリー理事からは、2020年～2021年にかけての

2年連続で行う10回の講座で完結する「英語発音講座/発音クリニック」を継続する講座開設のご要望と、当研究所主催に相応しい、それなりのサポート体制の確立への要望が出されている。

2019年度を締めくくる、国際教育研究所の今後の予定と課題

1. 紀要第 26 号の発行

令和1年度 国際教育研究所 紀要 第 26 号投稿規定

- (1) 投稿は本研究所の会員及び会員の推薦を受けた者に限る。
- (2) 投稿原稿の内容は、国際教育(英語教育を含む)に関する研究論文, 授業実践報告,
- (3) 原稿は未発表のものに限る。ただし, 口頭による発表はその限りではない。
- (4) 原稿は編集委員と編集委員が委嘱する専門家による査読審査を経て掲載を決定する。その際に修正をお願いすることがある。
- (5) 執筆者に対して原稿料の支払いはせず, 掲載料の徴収もしない。
- (6) 投稿者には紙ベースの紀要を贈呈する。

提出先

原稿は電子メールにデータを添付し、以下の 2 か所に送付する。

- ① 山岸信義理事長 (yyama300@mbd.ocn.ne.jp)
- ② 林正人紀要編集委員長 (msthysh@fc.ritsumei.ac.jp)

応募の締め切り

令和 1 年 12 月 20 日

2. ニュースレター第 83 号の発行

2019 年 12 月 10 日発行

巻頭言：山崎 勝

3. ニュースレター第 84 号の発行

2020 年 3 月 10 日発行

巻頭言：伊藤卓治

4. 2021年10月に、創立30周年を迎えるに当たっての準備強化に伴う 具体的検討案の件（幹部会で協議された内容）

① 創立30周年記念事業としては、過去の創立二十周年記念誌や創立25周年記念「月例研究会・座談会の記録」のような冊子の刊行は計画しない。

② 創立30周年を記念する特別企画として、ニュースレターの特別号を発行する。

創立二十周年記念誌に掲載されている月例研究会の記録は、第161回で終了しているため、ニュースレター特別号には、それ以降の月例会の講演会、授業実践発表、共催セミナーの記録などを盛り込む。

創立当初から当研究所に関わっている名誉所長、2名の顧問、幹部会のメンバーの他に、長期間当研究所に積極的にご参加いただいている理事やその他の執筆希望者に、過去の当研究所の歩みの歴史を振り返って自由に思い出や今後の抱負をニュースレターの特別号の原稿として書いて頂く。

5. ニュースレターの今後の発行予定日と巻頭言の執筆予定者（案）

News Letter 第82号が2019年10月10日に発行予定。巻頭言：田中慎也

News Letter 第83号が2019年12月10日に発行予定。巻頭言：山崎 勝

News Letter 第84号が2020年3月10日に発行予定。巻頭言：伊藤卓治

5. 小原先生が、豊田先生から受けた、「ソニア・ロッカ博士」のご講演を今後の当研究所の月例会に盛り込む事について。

6. 2020年度に向けた2019年度の総会で、年度途中で新たに加わる理事の推薦人事(4名)の件

【提案内容とその理由】

当研究所を、会員主体で動く学会へと進化させて行く為に、当研究所の活動に積極的に参加して頂ける会員には、他の理事と専門分野が異なれば、人数制限に、あまりこだわらなく理事として承認していきたい。次の会員の4名を、2020年度に向けた2019年度の総会での承認を得て、新たに加わる理事として、幹部会で推薦された氏名：豊田典子(法政大学経済学部兼任講師)、慶山豊治・慶山絢子(ブリティッシュカウンシル公認留学カウンセラー)、猪狩保昌(都立東大和高等学校教諭)、山本あゆみ(同時通訳者：日本通訳翻訳学会所属)

【1】会員の豊田典子先生

会員の申し込みをされた豊田典子先生を、2020年度から、理事として推薦したい。【推薦理由】6月例会でも積極的にご協力いただき、来年度以降の当研究所の月例会講師のご推薦も頂いている。豊田典子先生の略歴：東京生まれ、日英仏 trilingual。日系企業の英国支社長として英国赴任し欧州で ICT イベントをメインとしたビジネスに携わる。元プログラマー。在英10年以上。国際会議同時通訳及び IT コンサルタントとして独立し、英仏瑞独星伯米など世界各地での海外イベント、会議などの運営、通訳、人材派遣などに従事。訪問国数35カ国以上。FM 八王子にて英語番組のパーソナリティ。研究分野：第2言語習得・認知言語学言語と AI に関わる研究：例 Artificial Mind System - As an engineering approach to the language acquisition studies (2008, T.HOYA and Toyoda) など近著：『発音学習フランス語会話』(2018年)『初音ミクで日本語』(2018)『Let's Have Fun Teaching English (小学校英語)』(2019年3月)など監修：『5秒で返信英会話』『ネイティブが使う50のジェスチャー』など社会貢献：文科省「虹の架け橋プロジェクト(38億円)」(2010-2012)児童日本語支援公財)中国残留孤児援護基金支援事業 日本語と介護支援教室「大海グループ」顧問小学校プログラミング教育研究会(CPEC)顧問最近のプロジェクト：合同会社 S&N Information Limited 主任研究員(IT コンサルタント、リサーチ) CARICOM 災害 IT 調査(2015)、日本市場調査(2015)、ASEAN サイバーセキュリティ調査(2017)、上海モバイルペイ調査(など海外現地調査。世界各国に人的ネットワーク。)豊田先生には、海外での幅広い人脈をお持ちなので、当研究所では、グローバル人材育成面で、ご活躍が期待できる。

【2】 会員で共に British Council 公認留学カウンセラーの資格を持つ

慶山豊治・絢子夫妻

○会員として、積極的に参加し、月例会でも的確な発言をしている、慶山ご夫妻には是非当研究所の理事として推薦したい。

○【推薦理由】British Council 公認留学カウンセラーの資格を持ち、英国だけでなく、アメリカ・カナダ・欧州・アジアに至るまで、学校関係者と繋がりを持っておられる慶山豊治・絢子ご夫妻を是非、2020年度から、理事としてお願いしたいと思っている。国際市民意識を育て、グローバル人材育成面での当研究所の目指す分野で、活躍して頂くことが期待できる。2018年度の9月8日(土)の第180回月例研究会の第2部で、株式会社 ニュープレイス(英国留学専門エー

ジェント)の慶山夫妻に、第2部の英国留学専門エージェントからの提言として、「日本人の海外研修から見える英語教育の課題」のテーマで、発表をお願いしたことがあるが、大変好評であった。かつて、当研究所主催で、ジョージタウン大学での夏季英語研修を、英語教員対象に募集して実施していたことがあり、今後、このような分野での活躍も期待できる。

【3】会員で都立高校英語科教員の猪狩保昌先生

○学習困難校、生徒指導困難校での豊かな経験を積み重ねられ、英語を苦手とする生徒への授業に一貫して熱い情熱を傾けおられ、英語授業実践を積み重ねられてきておられる。2018年の7月28日(土)の第179回月例研究会では、「学習困難校のための英語教育—英単語と洋楽を使用した英語学習方法」の授業実践発表の予定でしたが、台風で中止になった。しかし、その内容は、ニュースレター第78号に書かれている。2019年9月例会では、「英語学習のやる気を引き出す教材の紹介」のテーマで、「英語の学習意欲のない生徒に向けての様々な工夫された独自の自主教材を使った授業実践発表をして頂いた。このような分野でのエキスパートとして理事に推薦したい。共著:「学習困難を克服する英語授業—アイデア&スーパーワーカー」明治図書 猪狩先生には、学習者のやる気を引出し、自主教材を使つての授業実践分野で期待できる。

【4】会員で、日本通訳翻訳学会所属で同時通訳者の山本あゆみさん

○オーストラリアのクイーンズランド大学通訳翻訳修士課程及びクイーンズランド工科大学 MBA 卒業。会議通訳者として、20年以上に及ぶキャリアを有する。会議通訳養成インタースクールプロ科修了後、通訳訓練にも携わる。2008年に外外資系生命保険会社の Reinsurance Company 日本支社に入社し、同時通訳・翻訳に従事されている。山本あゆみさんには、2017年11月に開催された第175回月例研究会で、「グローバル人材に求められている英語力—同時通訳の立場からの提言」のテーマで、英語教育推進に役立つ提言をして頂いた事がある。2017年発行の紀要第24号では、「グローバルな英語力を育成する教育への通訳翻訳理論の応用」とテーマでの論文が掲載されている。山本あゆみさんには、生きた英語をつかった英語の使い手として、現在英語教育現場で話題となっている「英語の4技能を育て、使いこなせる」教員養成分野の指導者として、期待できる。

2019年度国際教育研究所第5回理事会議案

1. 日時：2019年11月24日（日曜日） 11:00～12:00

2. 場所：公益財団法人日本英語検定協会 B館1階 小会議室A

出席者：小原弥生、川崎 清、田中慎也、田中ケアリー、毛里千里、
山崎 勝、山岸信義、山野有紀（8名）

欠席者：片山七三雄、瀬上和典、山本恭子、平見勇雄、山本新治、
江口邦彦、白石よしえ、中西千春（8名）

司 会：山岸信義

書 記：小原弥生

A. 報告

1. 第4回幹部会議事録確認

2. 第4回理事会の報告

3. 10月例会の報告

4. HP 担当の瀬上先生から、「ホームページ上で共催セミナーの予約を管理する機能を持たせるためには高額なサービスに加入する必要がある」との連絡を受けた。そこで、今回は、連絡先となっている山岸が共催セミナーの申込みを受けつけている。

5. 紀要第26号の現時点での執筆予定者

田中慎也、豊田紀子、山野有紀、仲谷 都、慶山豊治・絢子

6. 11月1日現在の最新会員名簿(36名)

7. 豊田紀子先生、猪狩保昌先生、山本あゆみさん、慶山豊治・絢子さんから、2020年度からの理事就任の受託が得られた。

8. ニュースレター第83号発行の件：12月10日に発行予定・巻頭言の執筆者(山崎 勝理事)

9. 共催セミナーでのアンケート用紙(山崎先生と山野先生の了解済)当日配付予定、アンケート集計の担当者は、まだ未定であるが、山崎 勝理事と相談して決める予定である。

B. 議案

1. 2020 年度以降の月例研究会の方針転換に伴う運営方針の見直しと具体的対策

【第 4 回理事会での協議で承認された内容】

- ① 月例会の時間： 15:00～17:00とする
 - ② 発表者は一人で 2 時間を発表者に任せる。
 - ③ 発表あるいは講演時間は 2 時間
 - ④ 複数で行う企画では、1 時間はパネルディスカッション、現場からの題などについての討論など、その 2 時間内で、発表者が自由に行う。
 - ⑤ 月例研究会は、4 月、5 月、6 月、9 月、10 月、11 月の年間 6 回とし、第 4 土曜日に実施する。
2. 英語発音講座が ? の時間帯で継続して実施することが承認された。国際教育研究所の主催なので、受付係・会場設営係などを決める必要がある。
3. 2020 年度の共催セミナーの企画を考える必要がある。
【案】 JACET の関東支部授業学研究委員会との共催セミナーなど
4. 当研究所の規約第 3 条に書かれている「日本人」を「人間」に書き換える事に決まった。

「本学会は、国際的に活躍できる人間を養成するための言語教育・国際文化教育の向上を目指し、研究・研修及びその推進活動を行うことを目的とする。」

<検討課題> 「日本人」を「人間」に変更したことで、今後の当研究所の方針や運営の見直しに

係る検討課題は無いかな？

<この件で何かの考えるヒントになる、ある会員から所長宛にきた問合せメール>

研究会の方向性が、まだよくわからずにいます。次のような疑問があります。

○国際教育ではなく、言語教育なのではないか、

○それとも国際教育に舵を切り替えていく途中なのか、など、たくさんの疑問点があります。

○例えば、CLIL に国際教育を含めることはできますが、CLIL そのものは国際教育ではありません。

○ニュースレターも拝読し、皆様が継続のお気持ちを新たにされたとのこと。皆様のお考えも含めてディスカッションしながらのことになると思いますが、何かお力になれば、また、まだまだ勉強不足なので、色々と教えていただけ

れば幸いです。

このメールに対して、私がおの問いあわせを頂いた会員に返送したメールは下記のようになります。今後の方針の確認や見直しの検討の際に、何かの参考になればと思ひ、お知らせします。

【私がおの会員に送信したメール】

当研究所の羽鳥博愛名誉所長（元英検協会会長・東京学芸大学名誉教授）が、当研究所設立当時に掲げられた国際教育研究所の概要には、下記のように書かれています。

1. 言語・文化教育の根本は人間教育であること留意しつつ、望ましい人間像、教師像を探求することを研究と研修の基本態度とする。
2. 世界の一員としての日本及び日本人はいかにあるべきか、という根本問題の解決を目指しつつ、国際理解教育の具体策を練っていく。
3. 国際的イベントや情報提供サービスなどに参画し、我が国の国際化活動を直接推進する任に当たるなどの努力をする。
4. 会員相互の交流による自主的研究・研修を促進するための活動を行う。
5. 以上のほか、教育技術研究に留まらず、人類がすべて共存共栄する明日の世界を築いて行くために何をすべきか等、「哲学する」活動を続ける。

以上のような活動を中心に、教師でありながら同時にグローバルな視野を持つ研究者を目指すための研究機関です。

これらの 5 項目は、国際教育研究所の創立者の理念ですので、私は羽鳥先生の後を引き継いだ者として、この理念を大切にしていきたいと思っています。この理念については、過去の理事会でも、何回か資料として配布して、ご検討頂いています。

上記の羽鳥先生の考えを今後の当研究所の規約第 3 条と結びつけて、どのように考え、具体的に、現実的な方針を打ち出して行ったら良いか？→ この考えは研究所の大枠なので各会員が、今までどおりそれぞれ自由に自分の研究活動をしていくことでよいのではないかと。

5. 会員主体で動く、国際教育研究所の組織つくりと、役割分担の配分、任務の責任体制確立の組織運営について

2020 年度以降の国際教育研究所の組織と役割分担

30 周年を向かえる 2021 年度から、国際教育研究所の運営方針の見直しに伴い、会員主体の研究と研修を重視した組織改編に改める。理事会組織の中でも、理事の先生方のそれぞれの学問分野でのご専門領域では、当研究所で共有できる学術領域として、さらなる普及や促進を重視し、将来的には、研究部組織の充実をはかり、自主的活動を重視し

た運営を目指していく。当研究所の会員相互のさらなる交流を促進し、会員が主体となる研究・研修活動を充実させていく。

現在の当研究所の規約では、次のように書かれている。(一部抜粋)

第八条 役員の任務は次の通りとする。

1. 理事長は本学会を代表し、理事会を招集し、議長を務める。理事長の選出方法は？
2. 副理事長（複数）は理事の立候補、推薦、互選により選出し、理事長を補佐し、理事長に事故ある時は、副理事長の間で協議し代行する。
3. 理事は理事長の指名により選ばれて理事会を組織し、研究所の運営に当たる。
→理事は理事会の推薦を得たものが、理事会の承認を経て決定する。
4. 理事長、副理事長、事務局長は幹部会を構成し、日常的な課題の対応に当たる。その結果は理事全員に速やかに通知し、理事会としての了承を得る。幹部会、理事会は必要に応じて文書連絡、メール連絡で代行できるものとする。
5. 事務局長は会計を兼務できる。

現在の国際教育研究所の組織

1. 研究部の発足は、今後の課題とし、会員主体の組織運営の基盤が固まった段階で具体案を考えていく。
2. 当学会では、国際教育関連で専門分野でのご活躍を積み上げておられる先生方に理事をお願いする。以下は例としてあげたもので決定ではない。
 - ① 英語教育方法論（江口邦彦）
 - ② 英語音読指導（小原弥生）
 - ③ 英文読解指導法（片山七三雄）
 - ④ 英語学習法・感情心理学（白石よしえ）
 - ⑤ 英語語用論（瀬上和典）
 - ⑥ 言語学・言語政策（田中慎也）
 - ⑦ 英語音声学（田中ケアリー）
 - ⑧ 英語学・英語指導・作文の技術【日本語文章の書き方】（川崎 清）
 - ⑨ 英語教育学・教育学一般（中西千春）
 - ⑩ 認知言語学（平見勇雄）
 - ⑪ 英語指導論（毛利千里）
 - ⑫ パフォーマンス学・英語授業学（山岸信義）
 - ⑬ CLILL 型英語授業実践論（山崎 勝）
 - ⑭ 外国語の授業改善実践論（山本新治）
 - ⑮ CLILL 型英語授業改善論（山本恭子）
 - ⑯ CLIL 型英語教科教育法（山野有紀）

- ⑰ 通訳・翻訳論（山本あゆみ）
- ⑱ 海外留学・海外交流・グローバル人材育成（慶山豊治・絢子）
- ⑲ 知覚情報処理・認知科学・言語学・英語学・日本語学（豊田紀子）
- ⑳ 学習意欲に欠け、学力が低い生徒への英語指導法（猪狩保昌）

<今後の課題>

各会員のみなさんにご自分の専門分野をなるべく詳細に書いていただき、その後、分類する。問い合わせの原稿作りと分類は片山先生（現所長代理）にお願いする。12月10日発行のnewsletterの発行まで山岸先生が問い合わせの原稿を送る。会員はその専門に応じた委員会を構成する。同一人物が複数の委員会に属することもある。

<三つの運営委員会の具合的な企画・運営の内容と担当者の件>

運営委員会として自主活動企画・運営委員会と年次大会企画・運営委員会は今後の課題とし、さしあたり次の三つを運営委員会として、活動を強化させていく。

(1) 月例研究会企画・運営委員会

- ① 企画・運営担当（月例会・共催セミナー）
- ② 当日の会場作りと後片付け、案内掲示と取り外し
- ③ 月例会の講師依頼、共催セミナー企画と実施計画
- ④ その他（担当理事主任と副主任の決定）

（山岸先生，片山先生，毛利先生，小原，その他立候補及び推薦）
一部会員に固定するのではなく全会員が都合のいい会に所属し、担当月を全員体制で運営してはどうか・

(2) 広報企画・運営委員会

- ① 報道機関への案内掲載依頼
- ② PDF版の紀要発行
- ③ PDF版のニュースレター発行

（担当理事主任と副主任の決定）

平見先生（newsletter），瀬上先生（homepage），毛利先生（大修館関係），井上先生，立候補，および推薦）

(3) 紀要編集・査読運営委員会

- ① 紀要執筆者探しと依頼
- ② 紀要執筆要領の作成と確認
- ③ 査読審査規定の作成と確認
- ④ 印刷会社への紙媒体の少数の発行依頼
- ⑤ 各号の編集企画の検討
- ⑥ (担当理事主任と副主任の決定)

(林先生<編集長>, 小原<副編集長>, 瀬上先生, 川崎先生, 明神先生,
白石先生、中西先生立候補, および推薦)

*名前は提案であり決定ではありません。

(4)] 事務局長: 毛利千里

(5) 会計監査: 徳矢進

6. 2019年度 国際教育研究所 総会(検討資料)

日 時: 2020年4月11日(土) 17:00~18:00 → 2020年4月25日月例会の13:30~14:00

総会次第

司 会: 山岸信義 (理事長)

書 記: 小原弥生 (副理事長)

A. 報告事項

1. 2019年度国際教育研究所月例研究会実施報告

- ① 2019年度は「グローバル化に向けた英語授業改善の多様な試み」を年間テーマとして、月例研究会を実施した。
- ② 2018年年度の月例研究会では、14:00~17:00の時間帯で、第1部を講演、第2部を授業実践発表にわけて実施した。
- ③ 月別出席者数: 4月(16名)、5月(16名)、6月(17名)、9月(13名)、10月(13)、共催セミナー: 11月()で、平均 名の出席者であった。
- ④ 月例研究会の出席者からは、他の英語教育学会では見られない、多様なテーマがあり、内容も充実しているとの感謝の言葉を頂いているが、会員の出席者が少ないので、今後の課題としたい。
- ⑤ 当研究所の規約第3条の一部の語句入れ替えが、第4回理事会で決まり、「本学会は国際的人間養成のための言語・文化の教育の向上を目指し、研究・研修及びその推進活動を行う事を目的とし、研究・研修及びその推進活動を行うことを目的とする。」の伝統ある条項を維持しながら、新たな課題に取り組んでいきたい。
- ⑥ 中学・高校の英語教師を中心に、会員の出席者が少なくなっている現状を踏まえ、今後は、会員が主体的に関われる組織運営を心掛けていく。月例会の時間も3時

間から、2時間となり、多様な講師の自由裁量での講演や発表も、計画されている。今後は、さらに、月例会への参加者が増える方向で、月例会運営・企画委員会を会員が支え合い、盛り上げて行きたい。

- ⑦最新の英語教育の動向も踏まえ、会員の専門分野・興味のある分野・月例会で取り上げて欲しいテーマ等を取りまとめる。それらの結果に基づいて、会員の希望・意見を取り入れて行く。また、多様な専門分野をお持ちの理事の先生方を総動員して、研究会組織の立ち上げを検討し、それらの成果が発表できることも視野に入れて、会員参加型の月例研究会を中心とした活動計画を練り上げていく。

2. 11月24日(日)に開催された、日本 CLIL 教育学会との共催セミナーの実施
報告：山崎 勝・山野有紀(共催セミナー担当理事)

- ① 共催セミナーの参加者：_____名
② 参加者の内訳
会 員 _____名
会員以外の共催セミナー関係者_____名
③ 共催セミナーの総括 山岸信義(所長・理事長)
④ 共催セミナー会計報告(毛利)

3. 「英語教育」2019年10月増刊号に当研究所の案内が掲載された。

4. ニュースレター発行の件(山岸)

- ① News Letter 第81号が2019年7月10日に発行された。巻頭言：白石よしえ
② News Letter 第82号は2019年10月15日に発行された。巻頭言：田中慎也
③ News Letter 第83号は2019年12月10日に発行予定。巻頭言：山崎 勝
④ News Letter 第84号は2020年3月10日に発行予定。巻頭言：伊藤卓治

5. 2019年度(令和元年)会計決算報告及び2020年度(令和2年)予算案(毛利千里)

6. 紀要第25号発行の件

7. 国際教育研究所の査読要領について

8. 2020年度 国際教育研究所 紀要 第27号応募規定

9. 2020年度「英語発音講座実施」の件(田中ケアリー)

来年度以降も、2年間継続による10回で修了する「英語発音講座/発音クリニック」の開催を計画している。

要望

- ① 「英語発音講座/発音クリニック」の時間帯は、過去2年間は、13:00～13:50であったが、来年度以降は、13:00～13:55までとし、5分間の時間延長をすることを承認して頂きたい。来年度の月例会の開始時刻により変わる可能性が

ある。14:00～14:50となる可能性が高い。

② 国際教育研究所の主催なので、当研究所側からのサポートを是非お願いしたい。具体的には、発音講座前後の会場設営のお手伝いを願っている。

③ もし、可能であれば、講座中にどなたかお一人に、受付をお願いしたい。

理事会で2～3人推薦願いたい。

難しい場合は、発音講座の講師サイドで、前回の講座と同様に、受講者の中のどなたかをお願いし、そのお礼の代わりに、発音講座の講師として、その方に個人レッスンを短時間することも考えるが、可能であれば、受付担当者をご検討頂きたい。その場合、個人レッスン代は講座の経費の一部とし、1回分を250円とすることを考えている。この件での承認もご検討頂きたい。

④ 昨年の7月のように、国際教育研究所の月例会が無い日程で、英検協会での会場で、英語発音講座を開催する場合は、発音講座担当講師への交通費支給をお願いしたい。→OK

⑤ 昨年と今年度の講座と同じように、今後も、英語発音講座の総収入から諸経費を差し引いた額の40%を、当学会に渡される額となる。→OK

10. 会員・新会員動向

○2019年度退会会員：_____

○2019年度新入会員：_____

11. その他の報告

B. 審議事項

1. 役員人事の件

第4回理事会では、当研究所の役員人事として、次のように決まった。

役職から所長・副所長を外し、理事長・副理事長とする

任期2年間（2019年4月～2021年3月）までの役員は、そのまま引き継ぐ。

名誉所長：羽鳥博愛、顧問：伊藤卓治、徳矢進、

理事長：山岸信義、

副理事長：片山七三雄、小原弥生

事務局長：毛利千里

●2020年度から2021年3月まで新たに理事に推薦され、理事会で承認された会員
豊田典子、猪狩保昌、慶山豊治、慶山絢子、山本あゆみ

理事：小原弥生、片山七三雄、勝又美智雄（削除）、江口邦彦、白石よしえ、瀬上和典、田中慎也、

田中ケアリー、富岡卓（削除）、平見勇雄、明神千代、山崎勝、山本新治、
山本恭子、山野有紀、中西千春、川崎清 +上記5名 合計20名
山岸信義(削除)

会計監査：徳矢進

【退任意志を示された理事】

【理事の人数】

定員数は定めない

2. 国際教育研究所規約改訂の件

- ① 規約の第3条の一部の語句が変更になったが、その他の個所の改訂部分があるかどうかの検討

○下記の第八条の個所を含めて改訂する件

第5回幹部会議事録中の議案5を参照のこと

国際教育研究所月例研究会（案）

年間テーマ：国際市民意識を育てる、英語教育推進の多様な試み（案）

→ 会員から聞いてはどうか？

<第4回理事会で、決まった内容に基いた月例会企画の進め方について>

1. 2020年度以降の月例研究会の方針転換に伴う運営方針の見直しと具体的対策

【第4回理事会での協議で承認された内容】

⑤ 月例会の時間：15:00～17:00とする

⑥ 発表者は一人で2時間を発表者に任せる。

⑦ 発表あるいは講演時間は2時間

⑧ 複数で行う企画では、1時間はパネルディスカッション、現場からの題などについての討論など、その2時間内で、発表者が自由に行う。

⑤ 月例研究会は、4月、5月、6月、9月、10月、11月の年間6回とし、第4土曜日に実施する。

『現在時点での月例会での講師・発表者の推薦者及び会員からの申込者』

1. 猪狩 愛先生（都立高校教諭：10月発表希望）備考：英語授業実践発表

2. ソニア・ロッカ博士（アメリカの言語学者） ○豊田典子先生からのご推薦

学会出席で、来日した時に、当研究所で講演を依頼する。通訳は豊田先生

2年以内に、日程がはっきりする、2020年度～2021年度にな

る予定。

3. 菅谷信雄氏（元カナダ三井物産勤務、現在は起業革命コンサルタント）
「英語をコミュニケーションの手段として活躍できる人材育成に関する講演」

○江口邦彦理事からの推薦で、講演依頼は済んでおり、ご快諾を頂いているとのこと。

4. 浜地道雄氏（一般財団法人グローバル人材開発顧問、国際ビジネスコンサルタント）、慶応大卒で、ニチメン社員として、中近東で、石油貿易に携わった。
当研究所の常連の出席者、過去にも講演をして頂いた事ある。
講演会講師の内諾を受けている。

5. 残りの講師、発表者は、会員から募集することが望ましいと考える。

*ロッカ博士の講演が2021年度になる可能性もあるので、当研究所の会員

3人に、月例会講師の依頼を考える必要がある。→4月は川崎清先生に依頼してはどうか？

4. ニュースレターの発行予定日と巻頭言の執筆予定者（案）

News Letter 第85号が2020年6月30日に発行予定。巻頭言：山本 新治

News Letter 第86号が2020年10月10日に発行予定。巻頭言：川崎 清

News Letter 第87号が2020年12月10日に発行予定。巻頭言：豊田典子

News Letter 第88号が2021年3月10日に発行予定。巻頭言：伊藤卓治

7. 【今後の課題】 研究部の立ち上げと会員相互の研修・研究の充実→削除

編集後記

今年もあと3週間となりました。本当に毎年毎年があつという間に過ぎてく気がします。今年度も国際教育研究所の研究会では素晴らしい発表がいくつかもありました。全てに出られたわけではありませんが、出られなかったものまとめをニュースレターで読んだりするときっといい発表だったのだろうなと感じます。もう来年は還暦を迎えるというのに、新しい講師をお迎えし、これまで自分の知らないような勉強法や研究に出会うと、まだまだ、という気になります。出席率の悪い会員もいらっしゃいますが（今年は私もその一人でした）是非 新年度は新しい気持ちで会員の方にも出席していただきたいと思っています。少し早いですが良いお年をお迎え下さい。

文責：平見勇雄